

## 産業ガス部門の組織と活動

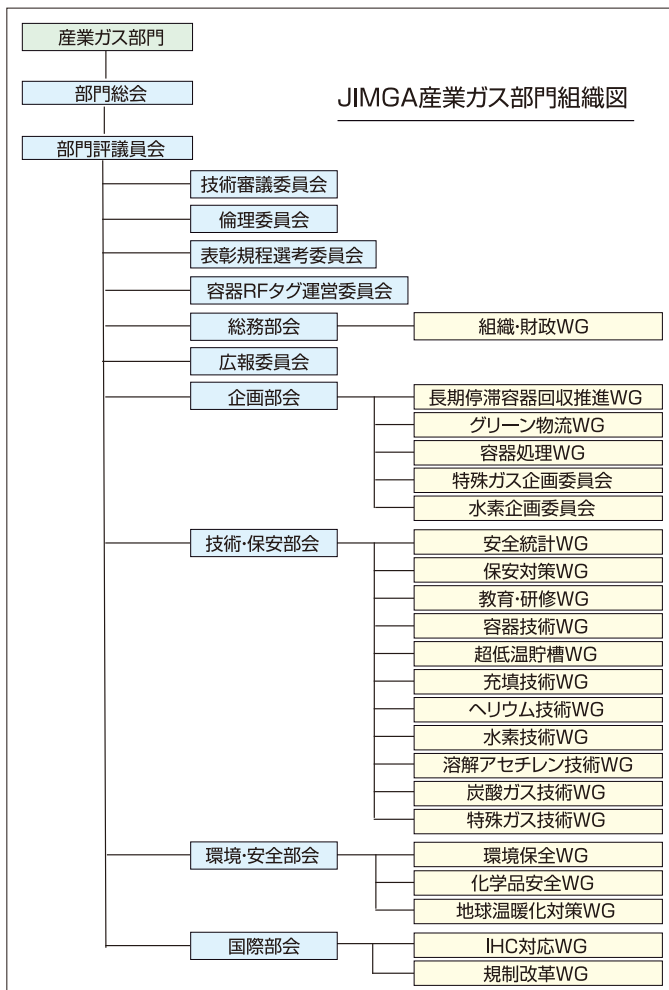
JIMGAの活動目的は定款第3条で「産業ガス事業及び医療ガス事業（医療ガスのほか、医療ガス関連機器・設備、及び在宅医療関連機器の製造及び販売等の事業をいう。）の生産、流通、利用、消費等の改善、合理化、技術の向上及び安全、保安の確保を図るとともに会員相互の親睦と研鑽に努め、もって産業・医療ガス事業の健全な発展を推進して、わが国経済の繁栄に寄与し、国民生活の健全な発展に寄与することを目的とする。」と定められています。

本部産業ガス部門での活動は、その実現を目指し、調査・統計、企画、研究、自主基準の策定、国際統合化、刊行物の発行、関係官公庁及び国内外の関連団体等への対外的交渉と、活動状況の社会への発信など、広範囲に及びます。これらの様々な課題を解決するために、合計32の部会、委員会、ワーキンググループ（WG）を組織し、会員会社から部会長、委員長、WG長、各分野の専門家を派遣いただいておりますが、その延べ人数は約250名で、会議や会合に要する所要時間は年間約650時間にのびります。JIMGAの活動は正に、会員会社のご協力ご尽力によって成り立っています。

本紙第1号では、容器RFタグ運営委員会、環境・安全部会、国際部会の活動の一端をご報告しました。引き続き各組織の構成や活動目的、重点課題への取り組みなどを、シリーズ化してお伝えします。今回は、技術審議委員会及び特殊ガス企画委員会・特殊ガス技術WGについて取りあげ、第3号以降も水素企画委員会などの各組織について詳しく紹介する予定です。

また、JIMGAでは、活動を全国的に円滑に行う目的で、北海道から九州まで9のブロックに地域本部を設置しています。各々の活動状況も次号以降、順次ご報告します。

（専務理事・豊澤 幸平）



## 発行物出版の関門、技術審議委員会

JIMGA の技術審議委員会は「協会の産業ガス部門における技術的事項を定める基準等のすべてに対して、それらを審議し承認し、JIMGA 技術基準としての出版または公表の許可を与える」ことを目的として2003年4月1日に発足しました。その委員は技術・保安部会長及び副部会長、国際部会長及び副部会長で、「委員長は技術・保安部会長又は国際部会長のいずれかから会長が任命する」となっています。

技術・保安部会、環境・安全部会、国際部会に属する各ワーキンググループ (WG) は、関係する会員会社から派遣される専門家によって構成される組織で、業界の活動分野の様々な課題について知見を持ち寄り、何度も保安・安全を確認しながら自主基準を構築していきます。委員会は通常年2回開催され、WG で作成された業界自主基準の草案を審査し、承認された基準は JIMGA 自主基準として出版できるよう許可されます。

### 自主基準の重要性

高圧ガスの取り扱いについては、高圧ガス保安法及び各種省令・告示で保安を確保するための基本的な技術基準が定められています。実際の我々の日常活動で、これらの基準やルールを遵守することはもちろんですが、作業員一人一人の安全を確保するためには、さらに詳細の自主的な安全基準が必要となってきます。各会員会社にはそれぞれ社内基準がありますが、作業員の保安を確保する基本的な基準は、業界として共通化し、自主的に決めるべきものであり、これが JIMGA 自主基準にあたります。

委員会の設立から約8年の間に、多くの JIMGA 自主基準が審議され、発行、出版の許可がなされました。JIMGA 自主基準は技術基準のみならず、国際整合化基準、環境問題への取り組み、安全を啓蒙する DVD の制作、事故統計、事故対策を実施する安全ニュースなど多岐にわたります。これらの情報は、JIMGA 会員や、広く社会に提供されます。どのような自主基準が出版されているかは JIMGA ホームページ (<http://www.jimga.or.jp/industrial/book/index.php>) をご参照ください。

JIGA 時代から現在まで通算 100 件以上の自主基準がありますが、この数は海外の高圧ガス業界団体である米国の CGA (Compressed Gas Association) や欧州の EIGA (European Industrial Gases Association) に比べて多いとはいえません。米国や欧州では自分たちの業界は自分たちで守るという意思をしっかりと持っており、法律が制定される前に業界で自主基準を作り、周知徹底することで保安を確保しています。



我々 JIMGA は、法律で網羅されていない領域での自主基準を積極的に作成し、継続していかなければなりません。自主基準が充実すればするほど、その業界の信頼性が高まり、社会的な地位も向上します。技術審議委員会は自主基準を厳格に評価し、会員及び社会のために保安を推進する原動力となっています。どうぞ皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

(技術・保安部会事務局 達 嘉樹)

## 特殊ガス企画委員会と特殊ガス技術 WG の紹介

半導体用特殊材料ガス、標準ガスを製造するメーカーの業界団体であった特殊ガス工業会（1972年設立）は、2007年のJIMGA発足以降も、特殊ガス分科会として活動してきました。2010年2月、協会の組織改定により特殊ガス分科会は解散し、その傘下にあった特殊ガス技術WGが技術・保安部会に移行、2010年12月には新たに特殊ガス企画委員会が設立されました。

特殊ガス企画委員会	
(株)ADEKA	ダイキン工業(株)
宇部興産(株)	大同IAP <sup>®</sup> ロダク <sup>®</sup> ・ILクトロクス(株)
関東電化工業(株)	大陽日酸(株)
ジャパンファインプロダクツ(株)	高千穂化学工業(株)
昭和電工(株)	東亜合成(株)
信越化学工業(株)	(株)トリケミカル研究所
セントラル硝子(株)	三井化学(株)

特殊ガス企画委員会には左記の14社が参加し、委員長には大陽日酸(株)の天田常務取締役が選任されました。主な事業目的は、「1. 特殊ガス技術WGと連携してマーケットニーズに対応した自主基準、技術指針ならびにJIS

Z7250:2005 対応 MSDS 注1) の普及に努める、2. 統計の作成、3. 関係官公庁及び関係団体との折衝連絡ならびに意見具申、4. 輸出入の許認可に代表される各種規制改革の推進、5. 企画部会と連携して長期停滞容器の発生防止、長期停滞容器の回収促進」です。

今後は明確なテーマに基づいたタスクフォースを組織し、保安情報の周知、マーケットニーズの把握、規制改革の要望、統計資料作成等の活動に重点的に取り組んでいく計画です。

### 規制見直しによる改正(2011年1月17日から施行)の一例

ガス名	最大充てん量(kg/L)		増減率
	改正前	改正後	
アルシン	0.416	0.416	
ジシラン	0.401	0.401	
ジボラン	0.0699	0.0699	
セレン化水素	0.244	1.376	5.64
ホスフィン	0.207	0.376	1.82
モノゲルマン	0.0877	0.0877	
モノシラン	0.257	0.257	
三ふっ化窒素	0.520	0.508	0.98
三ふっ化ホウ素	0.515	0.515	
四ふっ化ケイ素	0.781	0.781	

特殊ガス技術WGのメンバーは前記特殊ガス企画委員会14社と住友精化(株)、日本エア・リキード(株)ならびに一般財団法人化学物質評価研究機構の16社、1団体の20名で、WG長は昭和電工(株)化学品開発部の金田マネージャーです。事業目的は「1. 自主基準、技術指針の作成、JIS Z7250:2005 対応 MSDS の作成、改訂、2. 国際部会に委員を派遣して、国際整合化文書

を作成、国内での普及を図ると同時に、日本発のスタンダードの普及を図る」です。年6回、会議を開催し、マーケットニーズに対応した各種技術課題の検討・解決を行います。

最近の成果はJIS Z7250:2005 対応 MSDS 80種の作成と、1月17日から施行された上記、特殊材料ガスの最大充てん容量の規制改革（高圧ガス保安法容器保安規則の内規の改正）等々です。

注1) JIS Z7250:2005 対応 MSDS とは、2003年7月の国連勧告であるGHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)に対応したMSDSのことで、日本ではJISで規定されております。GHSは化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示等を用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルやMSDSに反映させ、災害防止及び人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。  
(特殊ガス担当事務局：三浦義樹)

## JIMGA 本部 平成 23 年 賀詞交歓会を開催

1月12日、都内の東京會館でJIMGA本部賀詞交歓会を開催しました。経済産業省、厚生労働省、高圧ガス保安協会など各種関連団体の来賓を迎え、約420名が参加し盛大に行なわれました。

はじめに豊田昌洋会長が挨拶に立ち、「日本の経済は油断できない状況であり、脚下照顧の精神で各々の事業をきちんと見極め、着実に自分の考えた道を歩むべき」と経済情勢を踏まえた事業者の姿勢に触れ、「昨年1月の公正取引委員会の立ち入り検査後、JIMGAは組織改革、統計データの管理徹底、会議ルールの設定などの対応を行った」と語り、直面する様々な課題



取り組みの更なる強化に向け、協会活動への積極的な参加を呼びかけました。

続いて、経済産業省製造産業局化学課の坂口利彦課長が登壇し、「日本の経済は円高の進展、海外経済の下振れリスクなど、予断を許さない状況にある。政府としては、今後も国民が豊かな暮らしを実感できる社会の実現の為に、取り組みを

進めて参りたい」と年頭に当たっての挨拶をされました。

次に、厚生労働省医政局 大谷泰夫局長の祝辞を挟み、高圧ガス保安協会 作田穎治会長が「一般高圧ガスの災害事故件数は平成18年以降増加しており、その主な原因はコンプライアンス意識の高まりによるものと思われた。しかしながら、平成22年12月までの速報値は、363件と平成21年より70件近く増加している。事故の内容は、軽微なものばかりではなく『意識の変化によるもの』では済まされない」と注意喚起を促されました。

このあと、松枝寛祐副会長が「RF タグの普及が、保安の強化の大きな役割を担う。JIMGAも全力を尽くして推進している」と挨拶し、同氏の乾杯の音頭で新年を祝う宴に移りました。

宴たけなわとなったところで、南部淳副会長の中締めで盛況裡に閉会しました。

なお、会長、副会長、来賓、中締めの挨拶は3月発行の産業ガスレポート春号で詳しくご紹介する予定です。

(広報委員会事務局・和田 彰)

### 事務局からのお知らせ

JIMGA Newsは、ホームページ・産業ガスレポートと共に、JIMGAと会員の皆様をつなぐ懸け橋として、少しでも機能を果たせるよう改善に取り組んでいきたいと思っております。ご意見・ご感想などございましたら、どうぞ下記の担当者にお寄せください。また、今回の発行に際して、多数の皆様方にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

【担当者】和田 彰 E-mail:awada@jimga.or.jp TEL:03-5427-6020 FAX:03-5427-0020